

中小企業大学校ってどんなところ？

経済産業省所管の独立行政法人、中小企業基盤整備機構(中小機構)が運営する人材育成を支援する研修機関。広島校をはじめ全国に9校設置されている。広島校は中国5県と愛媛、高知の両県の中小企業を対象に人材づくりをサポート。企業の経営課題の解決や、経営者・管理者などあらゆる階層に応じた必要スキルの習得など、分野別、階層別に多彩で実践的な研修コースを設けている。

■中小企業大学校で受けられる主な研修分野



中小企業大学校広島校の研修の特色



▲研修生がグループワークで、経営課題を話し合う様子。

- 1 実践経験豊富な専門家による講義だけでなく、グループディスカッションや自社の課題研究などを盛り込んだ実践的な研修。
- 2 研修効果を高めるための強固な研修を実施。利用しやすい価格の宿泊施設も充実。
- 3 研修後のネットワークづくりのために、研修初日に交流会を開催。
- 4 参加しやすい受講料となっており、国、県、市町村や業工会連年などの助成制度も利用可能。
- 5 自社の課題解決のために、中小機構の経営相談や情報提供(無料)、専門家派遣(有料)も利用可能。

人“財”育成を徹底サポート ～中小企業大学校広島校～

実例紹介

美保テクノス

〈米子市〉

中小企業の発展をけん引する人材を育成しよう、と、今回りか所を設置された中小機構が運営している、中小企業大学校。各大学校は、中小企業の管理者らを受け入れて、経営課題の解決を導く実践的な能力を養う研修を行っている。経営課題の美保テクノス(米子市)は、野井一成社長は、創設後社内教育の一端として、社員や幹部社員を研修に派遣。受講者が会社全体を見渡し、能力と意欲を高めるのが日々の業務に取り組みなどの好影響が社内に広がっている。

多彩な研修内容

中小企業大学校広島校(広島市西区)では、「企業経営・経営戦略/リーダー能力向上/組織マネジメント/人事・総務」「営業・生産」の2分野で講師が各専門家を出して実践的な内容を研修を担当し、段階を踏んで能力が身に付けられるように年間を通じたカリキュラムを組んでいる。

美保テクノスは2014年度以降、広島校での研修を3回受け、2015年度は野井社長をはじめとする役員と経営幹部が受講。同社の社長室の経営相談は社員と同様、同校で研修を受けられる中で最も多かった。16年度からは対象を中間幹部や女性社員に広げ、人材育成の取り組みを加速させている。

野井社長は「経営者や管理、中間社員それぞれがそれぞれの役割をこなすために、研修を通して、互いに協力し合えるようになり、日々の業務に活かせるようになった」と、研修の成果にも社



▲中小機構の支援事業によって設置された専門室と新システムも研修を想定する美保テクノス関係者

会社概要

●社 員/米子市職員25
●創 業/1988年7月30日
●資本金/1億円
●従業員数/162人
(2017年2月1日現在)
●事業内容/土木・建設工事の施工、や測量、企画、建設設計、監理、コンサルティング事業など

持続的成長を支援

同社はまた、中小機構がIT関連の人材育成のために専門室を長岡郡美保市に設置し、生産性の向上を目指した新たなITシステムへの導入に取り組んでいる。美保市は、美保市に設置された専門室で研修を受けている野井社長は「充実している中小企業向けの支援制度が、これからは活用していきたい」と話している。

立っている」と数ヶ月前の両市を巡り受講料が研修費(1〜4日間は概して1万6000円〜3万5000円)と手配に設定されていることも魅力だとしている。